

第2版はじめに

初版はじめに

序章 古典／現代法から法思想史を学ぶ意義 1

- 1 法思想史とは何か? 1
- 2 現代の日本法と法思想史 4
- 3 本書の概要 5

第I部 古代・中世の法思想

第1章 自然法思想の誕生

——アリストテレスの自然法思想 13

- 1 ソフィストの自然法思想 14
 - (1) ギリシア・アテナイの民主政 14
 - (2) ソフィストと自然法の視点 15
 - 2 ソクラテスとプラトン 17
 - (1) ソクラテスと悪法 17
 - (2) プラトンのイデア論と『国家』 20
 - 3 アリストテレスと自然法、正義 23
 - (1) 人間の自然と自然法 23
 - (2) アリストテレスの正義論 27
- まとめ 31

第2章 自然法思想と実定法——自然法とローマ法 33

- 1 ヘレニズム時代のギリシア哲学 33
 - (1) 地中海世界の変容 33

(2) ストア派	35
(3) エピクロス派	36
(4) 懐疑派	37
2 ローマの法思想①——共和政期を中心に	38
(1) ローマ人の特性	38
(2) ローマ法の厳格さと属人主義	39
(3) ローマの拡大と法の変容, 法務官の活躍	40
(4) 法学者の役割	42
3 キケロの自然法思想	42
(1) キケロとローマの政治	42
(2) 国家, 法についての思想	43
4 セネカの国家, 法に関する思想	44
5 ローマの法思想②——共和政期以後	49
(1) 自然法, 万民法, 市民法の意味	50
(2) 具体的な問題①——代物弁済の問題	51
(3) 具体的な問題②——危険負担の問題	51
6 ローマ法のその後	52
まとめ	53

第3章 自然法思想とキリスト教

——アウグスティヌスとトマス・アクィナス	55
1 アウグスティヌスの保守的自然法思想	55
(1) キリスト教とローマ帝国およびフランク王国	55
(2) キリスト教への回心	56
(3) アウグスティヌスの国家論	58
(4) アウグスティヌスの法理論	61
2 アクィナスのキリスト教的自然法思想と抵抗権	64
(1) 叙任権闘争と12世紀ルネサンス	64
(2) 神学と哲学の研究	65
(3) アクィナスの国家論	66
(4) アクィナスの法理論	67
(5) アクィナスの抵抗権論	70

(6) アクイナスの正義論	71
まとめ	73

第Ⅱ部 近代法思想の誕生

第4章 近代自然権・自然法思想 ——ホッブズ、ロックと近代国家 77

1 ホッブズの自然権思想	78
(1) ホッブズの自然状態と自然権	78
(2) ホッブズの自然法と国家	82
2 ロックの自然法思想	87
(1) ロックとフィルマー	87
(2) ロックの自然法と自然権	90
(3) ロックの抵抗権論	92
まとめ	97

第5章 自然法思想から人民主権論へ ——ルソーの社会契約論 99

1 自然法論とルソー	100
(1) 自然人・自然状態・自然法	102
(2) 社会状態と自然法	104
(3) 自然法の拘束力	105
(4) 『不平等論』から『社会契約論』へ	107
2 ルソーの法思想——『社会契約論』	108
(1) 国法の原理	108
(2) 『社会契約論』の課題	108
(3) 先行理論批判	109
(4) 社会契約の性質	110
(5) 一般意志論	113
(6) 主権論	115
(7) 主権と統治の区別	117

- (8) 人民集会 118
- (9) 主権の制限 119
- まとめ 122

第6章 近代市民革命後の法思想 ——カント、ヘーゲルのドイツ観念論 125

- 1 カントの法思想 126
 - (1) カント法思想の著作と課題 126
 - (2) 自由の哲学 127
 - (3) 適法性と道徳性 128
 - (4) 法の定義 129
 - (5) 私法論 130
 - (6) 公法論 132
- 2 ヘーゲルの法思想 136
 - (1) ヘーゲルとフランス革命 136
 - (2) ヘーゲル『法の哲学』の課題 137
 - (3) ヘーゲルの自由意志論と法哲学の構成 138
 - (4) 抽象法 140
 - (5) 道徳性 141
 - (6) 人倫①——家族と市民社会 141
 - (7) 人倫②——国家 144
- まとめ 148

第Ⅲ部 近・現代の法思想

第7章 ドイツにおける法実証主義 ——歴史法学、概念法学から自由法運動へ 153

- 1 法典論争と歴史法学派 154
 - (1) ナポレオンの支配からウィーン体制へ 154
 - (2) 法典論争 155
 - (3) 歴史法学派の形成 158
- 2 歴史法学からパンデクテン法学・概念法学へ 159

3	ドイツ民法典の制定	163
4	自由法運動の法解釈論	164
	(1) イェーリングの「概念法学」批判	165
	(2) 自由法運動	168
	(3) ヘックの利益法学	170
	まとめ	172

第8章 イギリス型法実証主義の確立

	——ベンサムとオースティンの自然法批判	176
1	ベンサムの自然法, 自然権批判と法実証主義	177
	(1) ベンサムの時代のイギリス	177
	(2) ベンサムの自然法論・自然権論批判	178
	(3) ベンサムの功利主義と法実証主義	182
2	オースティンの法実証主義と分析法理学	187
	(1) ベンサムとオースティン	187
	(2) オースティンの法実証主義, 分析法理学とメインの歴史法学	189
	まとめ	193

第9章 アメリカの法思想

	——自然権思想, 歴史法学からリアリズム法学へ	196
1	アメリカ独立期の法思想	197
	(1) アメリカ独立宣言とジョン・ロックの自然権思想	197
	(2) 違憲審査制と法思想	200
2	法形式主義の時代	202
	(1) 歴史法学	202
	(2) ラングデルのケース・メソッド	205
3	プラグマティズム法学とリアリズム法学	206
	(1) ホームズ, バウンドのプラグマティズム法学	206
	(2) リアリズム法学	211
	まとめ	215

第 10 章 現代の日本法と法思想史——まとめにかえて 217

- 1 憲法とのかかわり 217
 - (1) アメリカ, イギリスの憲法と自然権・自然法思想, 法実証主義 217
 - (2) 日本国憲法, ドイツの憲法と自然権・自然法思想 218
 - (3) 基本的人権の保障・国民主権と法思想史 220
 - (4) 法思想史の観点から見る違憲審査制 222
 - (5) 生存権と法思想史 224
- 2 刑事, 民事の裁判とのかかわり 225
 - (1) 刑事裁判と法思想史 225
 - (2) 法思想史研究と法解釈 229

引用・主要参考文献一覧

人名索引

事項索引

コラム

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------|
| 〈1〉ソクラテスの裁判 18 | 〈12〉ルソーと共和主義 121 |
| 〈2〉裁判の正義と立法の正義 30 | 〈13〉カントの永遠平和論 135 |
| 〈3〉古代ローマ(キケロ)の共和政 44 | 〈14〉ヘーゲルとプロイセン国家 147 |
| 〈4〉トピカ的思考 45 | 〈15〉ヘーゲルの承認論 149 |
| 〈5〉近世の新ストア主義——リブシウス 48 | 〈16〉民族精神とヴィルヘルム・アルノルト 162 |
| 〈6〉ドナティスト論争とアウグスティヌス 62 | 〈17〉19世紀ドイツ法学に関する研究 173 |
| 〈7〉アキナスの返還理論とサラマンカ学派 72 | 〈18〉ベンサム功利主義とトロッコ問題 183 |
| 〈8〉ホッブズとクック 85 | 〈19〉オースティンの法命令説と現代イギリスの法理学 191 |
| 〈9〉ロックとアメリカのインディアン 93 | 〈20〉独立宣言とリパタリアニズム 199 |
| 〈10〉近代自然法学派: グロティウスとプーフENDORF 101 | 〈21〉ルール・事実懐疑主義とリアリズム法学 214 |
| 〈11〉ルソーとジュネーヴ共和国 106 | 〈22〉法思想史と死刑制度 228 |